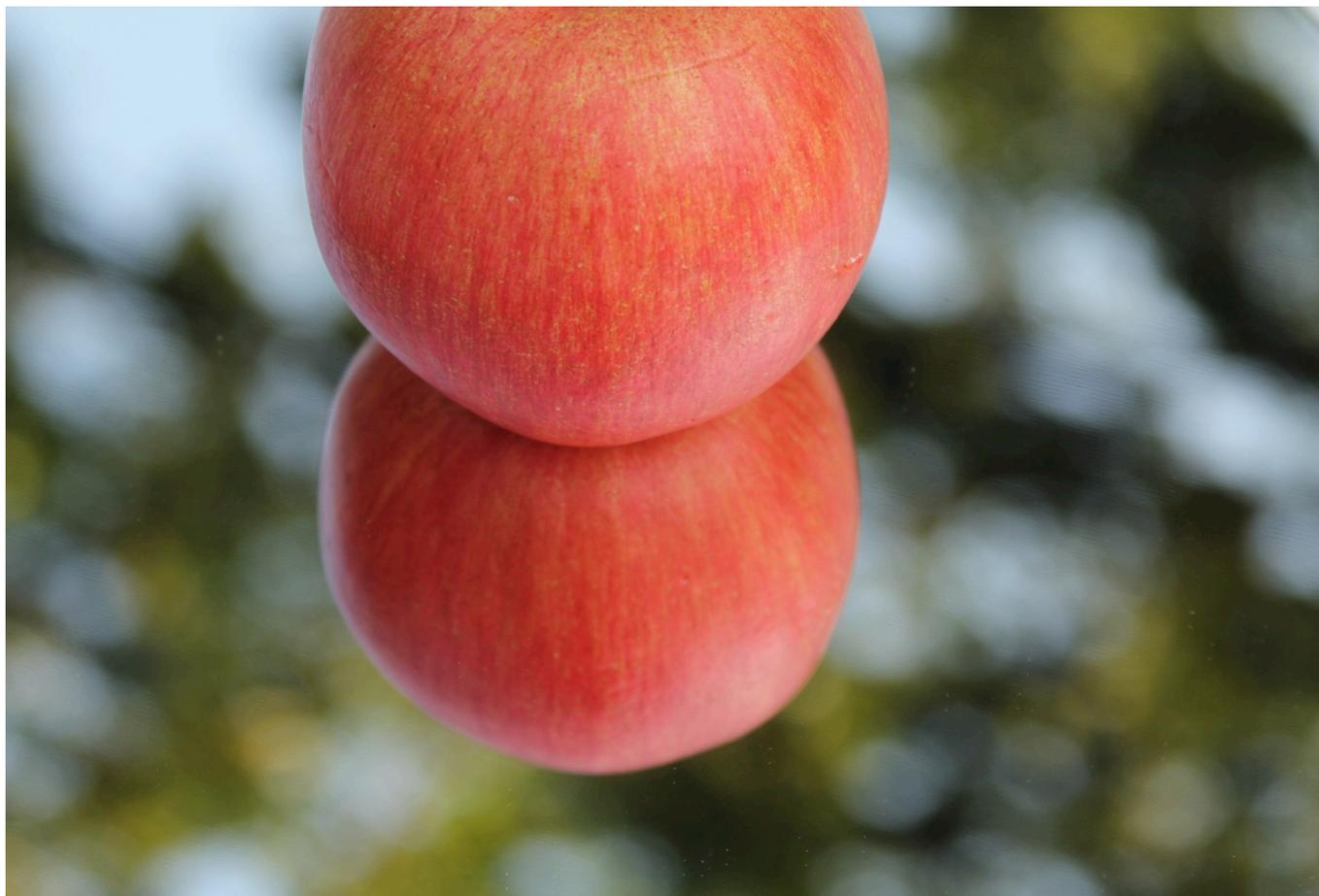


鈴木康広 始まりの庭
Yasuhiro Suzuki Spontaneous Garden



2017. 8.5sat. — 2018. 2.25sun.

会場：彫刻の森美術館 本館ギャラリー / マルチホール

彫刻の森美術館では、現代の新しい創作表現を紹介するシリーズの第7回として、「鈴木康広 始まりの庭」を開催いたします。

鈴木康広は、何気ない自然現象を見つめ直し、新たな感覚で翻訳した作品を制作しています。作品の題材は日常の中にあっても、鈴木の見点がそこに加わると当たり前存在していたものに新たな発見が生じます。その瞬間の驚きが痛快で、思わず微笑んでしまうことでしょう。鈴木の見立てを巧みに具現化した作品の前では、子どもから大人まで、あらゆる世代の鑑賞者が一度は同じ視点に立ちながら、見る側それぞれが培った体験や環境によって異なる気づきも加わります。

本展では、性質の異なる3つの展示室で構成された本館ギャラリーを舞台に、新作10点を含む62点を展示。また第2会場のマルチホールでは、鈴木代表作品《まばたきの葉》など、“まばたき”をテーマにした作品4点を紹介します。さまざまな実験が潜む作品の庭を散策し、新たな記憶と発見の始まりの場となれば幸いです。

つきましては、「鈴木康広 始まりの庭」を貴媒体上で是非ご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

■ 展覧会情報

| | |
|---------|---|
| 【展覧会名】 | 鈴木康広 始まりの庭 |
| 【会 期】 | 2017年8月5日（土）～2018年2月25日（日） |
| 【会 場】 | 彫刻の森美術館 本館ギャラリー / マルチホール (〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121) |
| 【開館時間】 | 9:00～17:00 (入館は閉館の30分前まで) |
| 【休 館 日】 | なし (年中無休) |
| 【入 館 料】 | 大人1,600円 / 大・高校生1,200円 / 中・小学生800円 |
| 【交通手段】 | 箱根登山鉄道「彫刻の森」駅下車、徒歩2分 |
| 【主 催】 | 彫刻の森美術館 (公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団) |
| 【後 援】 | 箱根町 / 箱根町教育委員会 / フジサンケイグループ |
| 【協 力】 | 異才発掘プロジェクトROCKET / 株式会社ゴトー工芸 株式会社セイコープラスチック 東京大学先端科学技術研究センター 人間支援工学分野 トキ・コーポレーション株式会社 / パイフotonix株式会社 福永紙工株式会社 / マグネットフォース株式会社 武蔵野美術大学空間演出デザイン学科 / 株式会社メディアタージ |
| 【出品点数】 | 本館ギャラリー 62点 (うち、新作10点) マルチホール 4点 合計 66点 |

※2017.6.30時点での作品数43点より66点に変更となりました。

■ 開催イベント ※詳細は決定後、当館HP等にてお知らせいたします。

■本展覧会の主旨とみどころ

鈴木康広（1979年静岡県浜松市生まれ）は、日ごろ見逃してしまいそうなモノや自然現象を鋭い感性で別のものに見立てた作品を発表する作家です。2001年にNHKの番組「デジタル・スタジアム」で発表した映像インスタレーション《遊具の透視法》が、最優秀賞を受賞以来、展覧会やデザインなどさまざまな方面で活躍しています。

2003年に発表した《まばたきの葉》は、美術館のみならず多くのパブリックスペースで話題を呼び、2009年に羽田空港で開催したデジタルパブリックアート「空気の港」ではアートディレクションを担当しました。2010年の瀬戸内国際芸術祭では、船の航跡をファスナーが海を「開く」ように見立てた《ファスナーの船》が話題を呼び、2014年の水戸芸術館での展覧会「近所の地球」や「パラパラマンガ商店街 in 水戸」を展開。2016年には「第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ」に日本代表として出展しました。

○新作の展示

《上/下 重力と磁力の彫刻》《自然を測るメトロノーム》《軽さを測る天秤》など、独自の方法で自然現象を見つめ直す新作10点を本展に合わせて発表します。どんな作品が登場するのか、お楽しみください。

○主題別に分けられた庭

「空気と水」「重力」「反転」「瞬間」などのテーマによって、本館ギャラリーの空間を「庭」に見立てた構成をします。会場の本館ギャラリーを一歩出ると、そこには彫刻の森美術館の屋外展示場が広がります。始まりの庭で鈴木の目を通した世界に触れ散策を開始すると、野外彫刻の見方も変わってくるかもしれません。

○代表作《まばたきの葉》を展示

マルチホールには、2003年に発表した鈴木康広の代表作《まばたきの葉》のほかに、目を閉じた瞬間を撮影する体験型の作品《まばたき証明写真》、1分間に1回「まばたき」をする《まばたきの時計》など、まばたきをテーマにした作品を展示します。「まばたき」は、鈴木が作品制作を開始する上で基本となったモチーフであり、「まばたきの葉」は「木」あるいは「葉」というかたちに目を向けることで、人間の視点を超えて世界の見方を広げるヒントとなった作品です。鑑賞者にとって、本館ギャラリーの展示をさらに深く読み解く鍵となることでしょう。



撮影：中川正子

鈴木康広 Yasuhiro Suzuki

1979年静岡県浜松市生まれ。2001年東京造形大学デザイン学科卒。日常のふとした発見をモチーフに、誰もが知っているものを新鮮な感覚で捉え直す作品を制作。国内外の展覧会をはじめ、パブリックスペースのコミッションワーク、大学の研究機関や企業とのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。代表作に《ファスナーの船》《まばたきの葉》《空気の人》など。2014年には水戸芸術館にて個展を開催、金沢21世紀美術館で「鈴木康広『見立て』の実験室」を開催。2016年、「第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ2016」に日本代表として公式参加。2014毎日デザイン賞受賞。作品集に『まばたきとはばたき』『近所の地球』（ともに青幻舎）、絵本『ぼくのにゃんた』（ブロンズ新社）がある。現在、武蔵野美術大学空間演出デザイン学科准教授、東京大学先端科学技術研究センター中邑研究室客員研究員。